

「進化」をテーマに地域で生き残る薬局へ 日々研鑽 ノーベル賞有力候補となった 柳沢教授の講演も糧に

interview

一般社団法人 日本薬局協励会 佐野智会長

大会テーマを「『変化から進化へ』～高めよう協励精神～」と掲げて6月に開催された日本薬局協励会「第77回 東京全国大会」。「進化」に込めたものは「地域から支持され、地域で生き残る薬局たれ」という思いだ。大会を機に、全国の協励薬局の研鑽マインドは一層高まっている。相談薬局としての秘訣とも言える「AQS接客法」、そして時宜を得たかのように米国ラスカー賞受賞、ノーベル賞生理学医学賞の有力候補となった柳沢正史・筑波大教授を招いての特別講演「睡眠の謎に挑む」は、医療費削減や社会貢献を担う協励薬局が持つべき最先端の知識である。

あらためて協励会の進化に込める思いを佐野智会長に伺った。

柳沢教授をリアル聴講した意義は大きい
「睡眠」の研鑽・フィードバックで
医療費削減、社会貢献へ

柳沢正史・筑波大教授による特別講演「睡眠の謎に挑む」の内容は専門的で、聴講した協励会会員でも十分に理解できたかどうかは疑わしい。それでも、リアル会場で、直に柳沢教授の話を聴くことの意義は大きいと佐野会長は言う。

「生で聞いたことがあるかないかで、大きく異なります。大会後、会員の先生方は本を読んだりしてさらに勉強し、睡眠の大切さをより理解されたと思います」

不眠に悩む日本人は多い。だが、「自分の最適な睡眠時間に気づいている人はどれだけいるのでしょうか。個人差もあるとは思いますが、概ね60歳の人だと6～7時間です。60歳以下の方はもっと長くなければいけませんし、一方60歳以上の人は短くていいわけです。80歳だったら6時間ちょっと。ところが夜8時に寝て、朝8時まで眠れないと『眠れない』と思ってしまつて睡眠薬を飲んでいる人もいます。



年間テーマとして掲げ、協励会の先生方が睡眠についてしっかりと勉強することによって、患者様や地域の方々に正しい睡眠の知識を伝えることができるわけです」

佐野会長は、睡眠のリズムを正しくすることで、高血圧や心筋梗塞、糖尿病、うつ病などの疾患の改善にもつながると述べる。

次頁につづく



さらに、
「不眠による経済損失は、年間約15兆円と
言われています。国内総生産（GDP）の約
3%と大きい。そこで、睡眠の正しい知識
を伝えて、質の高い睡眠が得られるよう
になれば、医療費の削減にも大いに寄与す
ることができると思います。」

また、協励薬局の先生方に共通の認識と
して持ってもらい、1年間、徹底的に勉強
することによって何ができるかという、
地域の方々にフィードバックできたら、必
ず社会貢献につながると思います」

地域に支持される薬局、生き残る薬局に
なるには、地域の住民が気づいていない自
分の健康問題を分かりやすく伝えることも
大切だろう。地域住民一人ひとりの身近な
健康課題に寄り添いながら、延いては国の
課題にアプローチできるのは薬局薬剤師の
真利に尽きるものかもしれない。

27年の年間テーマは「運動」、地域に発信

柳沢教授の世界最高の睡眠学がテレビな
どマスコミに取り上げられることで、薬局
の店頭でも問い合わせが増えていたり、睡
眠の話に興味を持つ人が多くなったりして
いるようだが、「協励薬局では（相談に応
えられる）準備ができている状態」（佐野
会長）にある。

もちろん睡眠は今後も継続するテーマだ

が、毎年、新たなテーマを具現化し、知識
や情報を蓄積していくことで薬局の成長を
図っていくという。

「来年のテーマは『運動』です。筋力の低
下やフレイル対策、また若い人の運動習慣
も提案していきます。毎年、新たなテーマ
を掲げるのは、地域の方々に必要な情報で
あるとともに、協励会の先生方に最先端の
知識を得て、地域に役立てていただきたい
からです」と佐野会長は意気込む。

「AQS接客法」、セルフメディケーション 推進の要諦

地域医療連携では、信頼される薬局薬剤師 が求められる

今回の大会のプログラムでは例年通り
「混合協励会」（テーマ：記憶に残る接
客）が行われた傍ら、AQS（All Question
Sale）接客法が新たに引き上げられた。

このAQS、文字通りにとれば「すべての
質問による販売」だが、内実は相談薬局と
しての接客の秘訣であり、「どうなさいま
したか十二段」の進化ともいえる薬局店頭
接客法だ。進化をテーマとした大会に合わ
せて沖縄式AQS接客法が、パネルディス
カッション形式で披露された。

AQS接客法は、信頼される薬局、生き
残る薬局として協励薬局の基本でもある。

「『Sale（＝販売）』まで行わなければセ
ルフメディケーションになりません。最後

に商品を提案し、お客様に納得して買って
頂けるかどうか。買って頂くということは
信頼です。その信頼を得るために、薬局は
日々勉強し、研鑽しなければなりません」

さらに、佐野会長がこう強調した。

「ここにマインド（協励精神）が、心がこ
もっていないとダメなんです。物心一如。
物には心を添えて。大会のテーマに『高め
よう協励精神』を付けているのは、その思
いが込められているんです」

近年、協励会に若い経営者の入会が増え
ているという。

少子高齢化の進展とともに、地域医療の
スラム化が危惧される中、医療を支えてい
くために薬局の存在と役割が注目されてい
る。そのためにも薬局は生き残らなければ
ならない。地域に支持される薬局にならな
ければならない。

地域医療の在り方と薬局経営の将来を見
据えたとき、研修団体である協励会での研
鑽が不可欠と思われるのだろう。

[👉 次頁につづく](#)

トリアージできる薬局薬剤師の必要性

佐野会長は、地域医療のスラム化が懸念される中で「トリアージできる薬剤師が必要」と力説する。医療機関に受診する前に、薬局薬剤師に相談できることは少なくないはず。多くは何をどう相談していいのかわからないから、とりあえず病院で診てもらおう。そして薬は薬局へ、という既存の構図を崩せるのはやはり、薬局薬剤師であろう。

「協励会はオリジナル商品、選定品を持っていますから、AQSによる接客法から販売までの独自ノウハウでセルフメディケーションを推進できます。一方、地域医療連携の観点では在宅医療、自宅療養における抗がん剤の副作用対応など、医師や専門チームと一緒に患者様を守っていく中で、信頼されるスタッフとして専門性を発揮していく、いわば変わらないもの（不易）から、今後ますます必要性が高まる『流行』の領域が広がっていると思います」

（9月18日、東京・代々木の協励会館にて）

一般社団法人 日本薬局協励会

<https://www.kyorei.or.jp>



（参考）

どうなさいましたか十二段

「どうなさいましたか」ではじまる12の言葉の接客法は、物品販売業から脱却し、健康の相談相手として消費者から信頼される。

- | | |
|------------------------|---------------------------|
| ① どうなさいましたか | 悸はありますか |
| ② どなたが悪いのですか（男・女・何歳） | ⑨ 今までどんな薬を服用していましたか |
| ③ 熱がありますか | ⑩ いつも元気ですか、体質についてお聞かせください |
| ④ 痛みますか | ⑪ 服用法 |
| ⑤ 咳が出ますか、呼吸が苦しいですか | ⑫ 食事の注意、養生法、手当法 |
| ⑥ 便通はいかがですか、お腹がはりますか | |
| ⑦ 吐き気はありますか、お腹はすきますか | |
| ⑧ 眠れますか、血圧はどうですか、むくみや動 | |

【後記】

記者はいよいよ高齢の領域に入る。ご多分に漏れず、体のあちこちに痛みが生じる。過日、足の指関節の痛みで整形外科に診てもらったものの骨に異常はなく、原因は不明。その後薬局で相談するものの病院での受診をすすめられ、堂々巡り。市販のシップ剤でセルフメディケーションを継続している。

佐野会長の話の中に「不通則痛」というものがあつた。不通＝血の巡りが悪くなり、痛みが出ること。

痛みの多くは冷えからくるという。季節を問わず冷たいものを摂る、エアコン、空

調の効き過ぎで体が冷える……。冷えを改善すれば治る病気がたくさんあるようだが、病院で受診すると血行促進剤が処方され、体がかゆくなってしまうこともある。

日本薬局協励会では統合医療も研鑽の対象におき、ドクターを招いて養生法の講演会を行ったところだという。日ごろの勉強熱心は薬局薬剤師の姿だが、日々研鑽という協励会の代名詞のように聞こえる。

病院でも診断がつかない症状、自分でも気づかない体の異変……。研鑽による情報提供や養生の提案をしてくれる相談薬局が生活圏内にあれば、日々齢を重ねていくうえで心身の拠り所になるだろうと思った。